

平成27年度 第3回 豊田市地域経営懇話会 会議録

【日時】平成28年3月16日(水) 午後2時～午後4時

【場所】元城庁舎西棟3階会議室

【出席者】(委員) 青木 利元 (稲武地域会議)
安藤 茂 (豊田市高齢者クラブ連合会)
酒井 保彦 (豊田市区長会)
澤田 恵美子 (豊田市消費者グループ連絡会)
杉浦 幸枝 (豊田市国際交流協会
ボランティアグループほづみ会)
田中 すい子 (豊田市ボランティア連絡協議会)
三崎 祐子 (豊田市ファミリー・サービス・クラブ)
湊 裕 (連合愛知 豊田地域協議会)
村林 聖子 (愛知学泉大学現代マネジメント学部准教授)
山崎 丈夫 (愛知学泉大学附属研究所客員研究員
・元教授) 《会長》

(計10人)

【欠席者】(委員) 宇佐美 英理子 (学生によるまちづくりの会)
田端 稔 (豊田商工会議所) 《副会長》
津村 美紀 (公募委員)
西原 香保里 (愛知みずほ大学短期大学部教授)
林 文生 (豊田市PTA連絡協議会)
松本 章 (豊田市青年会議所)
村野 政章 (公募委員)
山中 敏弘 (あいち豊田農業協同組合)

【事務局】 須藤 寿也 (総務部長)
藤本 聡 (総務部副部長)
竹内 寧 (総務部行政改革推進課 課長)
塚田 良 (総務部行政改革推進課 副課長)
松本 一輝 (総務部行政改革推進課 主査)
永田 知恵 (総務部行政改革推進課 主査)

【次第】 1 開会
2 会長あいさつ
3 議事
(1) 第2次地域経営戦略プランの策定について【報告】
(2) 平成27年度パブリックコメント実施状況について【報告】
(3) 平成28年度当初予算について【報告】

(文責は事務局。訂正することがあります。)

【会長あいさつ】

- ・豊田市の様々な担い手である皆様からのご意見は貴重なものであり、活発な議論をお願いいたします。

【議事（1）】第2次地域経営戦略プランの策定について

○会長

- ・何かご意見があればお願いします。

○委員

- ・共働の評価指標が、連携件数や担い手数など件数のみで評価されているところが気になります。共働は、数値結果だけでない部分も評価に入れるようにご検討いただきたいです。

○事務局

- ・定量的な指標を示しながら、定性的にも評価を行っていきます。

○委員

- ・各種団体からプランに対する意見を伺った中で、市民活動団体（スポーツクラブ・健康関連の活動団体）とありますが、具体的にはどんな活動団体なのでしょうか。

○事務局

- ・「あそべるとよたプロジェクト」という都心でやっている取組に参加いただいている、市民向けのヨガ等を行っている市民活動団体にご意見を伺いました。

○委員

- ・仕事柄気になるのですが、障がいを持つ方たちの意見を聞く機会があるとよいのではないのでしょうか。

○事務局

- ・今後そのような方たちにも配慮し、検討を行います。

○委員

- ・プラン全体の評価についてですが、地域予算提案事業、わくわく事業を使って地域づくりを行っているが、地域格差があるものをどのように評価していくのでしょうか。
- ・また、そういった制度の有効活用には、支所長の音頭が重要となっていますが、今後の緊縮財政の中、地域に振り分けられる予算の使い方に関してどのように評価されるのか聞きたいと思います。

○事務局

- ・共働の推進の担い手として意識しているのは、区長さんを始めとする地域住民のみなさんです。我々は、これまで以上に地域のみなさんにお世話になっていくことが予想されます。ただ、同じ人が重複して役割を担うのではなく、地域でご活躍いただく裾野を広げていくことが、これからの地域で様々な活動を進めていくためには、重要なことであ

ると考えています。

また、色々な活動を地域の枠を超えてされているNPO団体等と地域とが今まで以上に関係を作っていきたいと思っています。

- ・新聞報道にもあるように財政的に益々厳しくなっていますので、補助事業は、他市に比べて多いのが現状ですが、今まで通り継続するのは難しいでしょう。
- ・また、あくまで補助事業というのは、軌道にのるまでのものというのが基本です。無理やり予算を使い切るといのはなく、いい事業には支援をし、役割を終えたものについては整理していく、ということであり、地域の状況に応じて、臨機応変に対応していきます。

○委員

- ・各支所でうまく活用し、今後の地域づくりに生かしていきたいと思っています。また、地域での取組をPRして、支援を継続してもらえるように頑張っていきたいと思っています。

○事務局

- ・次年度からすぐに急激に財政が厳しくなるわけではないので、丁寧に市民のみなさんと議論しながら進めていきたいと思っています。

○委員

- ・現状の戦略方針では、市民だけが共働の取組を進めていくようなイメージを受けますので、市役所も一緒に取り組んでいる、ということを表現するために、「共働への理解促進」を入れたらどうでしょうか。人事異動の際に、共働に対する職員の意識や理解にばらつきがあって起きる問題も、「共働への理解促進」を入れることで解消されるのではないのでしょうか。

○事務局

- ・行動計画には、豊田を愛する職員の育成や若手職員が地域に出向いて研修を受けるといったような職員が共働を理解する計画が組み込まれています。

○事務局

- ・立ち上げ期の想いが、人事異動等を経て薄れていくことが課題と感じています。定着したと捉えられるかもしれませんが、継続した市役所内への働きかけは必要だと感じています。

○委員

- ・実際に地域の中で活動していく中で、自分が活動している分野以外にも目が向いて、活動が広がっていくこともあると思います。職員においても、自分の所管だけでなく、他の所管の動きも知る機会もあった方が良いのではないかと思います。

○委員

- ・共働といっても、地域の中にも子ども会や高齢者クラブ等様々な活動主体があるため、市役所が主導していただきたいが、市役所のどの部署が主導するのか明確にしてほしいと思います。

○事務局

- ・市役所は未だ縦割り行政です。高齢者等を基準にすると、縦割りでは仕事ができないことが多々出てきています。とりまとめ課は必要だと思いますが、テーマに合わせた柔軟な対応をして、一体感を持って進めていきたいと思っています。

○委員

- ・認知症の高齢者の徘徊・見守りSOSネットワークについて教えてほしいです。模擬訓練というのは、やっている自治区とそうでない自治区があるのですが、自治区の自主性に任せているのでしょうか。そうだとしたら、高齢者の徘徊はこれからの問題でもあるので、各自治区順番に実施してほしいと思います。
- ・自治区のトップである区長さんが知らないことが多いです。私は民生委員をやっているのですが、民生委員の会議のことも、区長さんに伝達していただきたいと思っています。

○事務局

- ・行動計画の中で、模擬訓練の実施回数までは掲載しておりますが、具体的な展開方法までは把握しておりませんので、一度所管課の考え方も含めて確認し、いただいた意見は所管課へ提供をさせていただきます。

○会長

- ・地域経営戦略プランの指標を定量的・定性的にわかりやすく評価するように変更されていますが、その点についてみなさんはどのようにお感じになりますか。

○委員

- ・今までの指標に違和感があったので、市民から見てもわかりやすくなったと思います。
- ・一方で、第1次地域戦略プランから行動計画数が2割程度増えているのが気になります。5年後の歳入減を見据えた行動計画が増えているのであればよいですが、予算に係る資料を見ても新規・拡充が目立ちます。また、「お金が無いなら無いなりの取組を実施すべき」「スクラップも重要である」等地域経営懇話会内で出た意見はどのように反映されているか教えてください。

○事務局

- ・廃止に向けて取り組んでいくものや事務の見直し・効率化に関する計画がありますし、歳入の確保についても広告事業の拡大等行動計画の中にちりばめられています。
- ・平成33年度までに歳入が200億減りますが、来年度の予算は過去最高額になっている状態です。これからの5年間でどのようにソフトランディングするのか、これから検討していきます。また、現在すぐに取り掛かれるものについては、行動計画として位置づけています。

○委員

- ・プランを増やせば増やすほど、対応する職員への負荷が増えることが想定されます。職員の健康を害したり、無理な働き方につながらないようにご配慮いただきたいと思っています。
- ・要望になってしまいますが、単純なアウトソーシングによる丸投げで、安い労働力に替えていくことのないようお願いしたいと思います。

○事務局

- ・過去最高額の予算を組んでいるタイミングで予算削減の話をしなくてはいけないのは、理解しづらい部分があるかと思いますが、歳入も一気に下がるわけではなく、徐々に減っていくこととなります。来年度末に第8次総合計画が策定されますので、次年度その考え方をまとめ、方針をはっきりさせていきます。総合計画と地域経営戦略プランの策定年度がずれていることから、今回具体的に掲載できなかったものも、場合によっては今後追記・変更する可能性があります。
- ・市役所に期待されるものが年々増えていますが、そのすべてに対応することはできませんので、市役所が何をすべきかを市民のみなさんと十分話し合っ、必要な職員数や職員の健康について整理していきたいと思います。

○委員

- ・「行政は様々な取組を実施しているが、その取組がどこまで浸透しているか疑問である」という市民からの意見がありますが、自分が参加している団体に会議の内容を報告した時に同じような意見が出てきます。
- ・私は市役所が開催する様々な会議に参加していますが、議題にあがっていることが重複していることが多いです。所管課はあると思いますが、横のつながりを強化してほしいと思います。その点で、関係する所属をすべて行動計画に記載していただくとわかりやすいと思います。
- ・市長の懇談会が地域で開催されていましたが、同じように地域で説明会を開いてもらうと市民は市役所の取組がわかりますし、市民からの意見も出やすいと思います。

○会長

- ・地域経営という行政が市のすべての責任を負ってやってくれるというイメージになりますが、市役所にすべてお願いするのではなく、地域や各団体が主体性に進めていけるとよいのではないかと思います。他に意見はありますか。

○委員

- ・中学校区で地域診断の実施とありますが、具体的には交流館ごとに実施されているのでしょうか。
- ・ヘルスサポートリーダーの養成講座は一般の人はどこから情報を得ればよいのでしょうか。

○事務局

- ・地域診断の具体的な実施方法は把握しておりませんので、所管課に確認します。
- ・ヘルスサポートリーダー養成講座は、ホームページや広報等で周知しているはずですが、それ以外でどのように周知しているかは把握できておりません。

○委員

- ・自治区の見聞板で講座のチラシが入っていたのを見たことがあります。

○委員

- ・自治区だけでなく、交流館で養成講座を実施したり、お知らせも広報に掲載するとい

と思います。また、そういった講座に参加する人は、会社を定年退職した人をターゲットにすると活動してくれる人は多いと思います。関係する団体には情報が降りているようですが、現在団体に参加していない人で関心を持っている人にも情報を届けてほしいと思います。

○委員

・地域バスや基幹バスについてですが、名古屋市では地下鉄を市バスは敬老パスを配布して年配の方が元気に外出しています。豊田市においても、敬老パス等を配布してバスの利用を促すような施策は検討されていないのでしょうか。

○事務局

・以前からそういった要望はありますし、元気に外出することが大切であることは承知していますが、豊田市においては前向きに検討されているとは言えません。基幹バスや地域バスについては、地域の要望にもできるだけ答えながら、利用状況も含めて検討を進めてきたところです。

○委員

・高齢になり、免許を返す時に躊躇される方がいます。高齢者が自宅に引きこもってしまうことや交通事故を引き起こすリスクも考えると、免許返納の際には、タクシー券の配布をご検討いただきたいと思います。

○委員

・行政の方だけの視点では、大胆な発想で仕事の仕方を見直すことが難しいのではないかと思いますので、第三者の様々な意見を取り入れてみてもよいのではないかと思います。

【議事（2）】平成27年度パブリックコメントの実施状況について（報告）

○会長

・名古屋市のパブリックコメントは風化してしまっている印象があります。何かご意見あればお願いします。

○事務局

・件数だけでは判断できないと思いますが、今年度は1案件あたり140件、昨年度155件程度と比較的多くのご意見を頂けていると思います。

○会長

・現在の取組結果をどのように捉えていますか。やり方を変えるようなお考えはありますか。

○事務局

・平成21年度からEモニターによるパブリックコメントを取り入れています。豊田市の行政課題に対して、事前に登録いただいた方にご意見をいただくものですが、パブリックコメントにおいても、Eモニターの方にご回答いただいて工夫しています。一方で、Eモニターによる回答を除くと一般での意見数が少ないという課題もあります。

- ・今年度は231名のEモニターの方に回答をいただいておりますが、全体の回答数に占める割合としても高いです。

○委員

- ・パブリックコメントの期間は1か月間ですが、期間としては適切でしょうか。

○事務局

- ・長く設定したら意見がたくさん出てくるものではありませんし、市民からの延長の要望もありませんので、1か月を採用しています。

○委員

- ・市民3,000人を対象とするアンケートであったり、実施状況にばらつきがあるようですが、どのような違いなのでしょう。

○事務局

- ・所管課にはパブリックコメントだけでなく、その事業にあった方法で市民の意見を聞くようにお願いをしていますので、それにより実施状況にばらつきはあります。

○委員

- ・質問項目を決めないで自由記述を取り入れると様々な意見が出てきて良いのではないかと思いますし、思い切ったことをやらなければ、新しいことはできないと思います。

○委員

- ・区長会を通じてパブリックコメントを依頼されることがよくあります。地域にお願いしても意見はあまり出てこないのですが、行政がどの程度市民の意見を取り入れるつもりがあるのかによります。
- ・現在地域主導でやるというのが主流となっており、短期的には区長がまとめればよいと思いますが、長期的な案件は行政から背中を押してくれないとやれないこともあります。

○委員

- ・中山間地域と都市部では状況が全く違いますので、地域に合った政策を実施してほしいと思います。

○会長

- ・パブリックコメントを実施するテーマについて工夫はありますか。
- ・市民生活に係るものについては市民からの反応も多いのでしょうか。

○事務局

- ・パブリックコメントの対象とする案件の基準は設けています。
- ・市民生活に大きな影響を及ぼすものは、回答数にも顕著に表れています。

○委員

- ・現在実施している防災のパブリックコメントは資料の文字が多すぎて、意見が出てこないように思います。

○事務局

- ・あまり多くなりすぎないように広報には掲載しているつもりですが、今後も努力していきます。

【議事（3）】平成28年度当初予算について(報告)

○会長

- ・何かご意見あればお願いします。

○委員

- ・税金が十分あったにも関わらず、なぜ30億も借入をしなくてはならないのでしょうか。また、なぜ積立は記載のような額になったのでしょうか。

○事務局

- ・借入は建設系の事業が対象になっておりまして、建てられた施設を使用する将来の方々にも負担をしていただくために借入をしています。
- ・平成26年度と27年度は大きく積立額が増えているのですが、当初予算においては、積立額は他の年度とほとんど変わりません。しかし、年度途中で歳入が増えると、途中で新規事業も始められませんので、積立てを行うしかなくなるのです。

○委員

- ・予算の立て方は、各課がやりたい事業の予算を積み上げていくものなのか、それとも歳入の範囲内で行政のやるべきことを考えているのかどちらでしょうか。

○事務局

- ・特に建設系の事業は、歳入がある時に前倒して実施していくことはあります。しかし、各課の予算を積み上げていくと歳入が不足しますので、実際には、事業を絞って実施しています。

○委員

- ・組合へのアンケート中で「安心・安全なまちづくり」に関する要望は昨年非常に高く、特に防犯カメラや防犯灯の設置に対する要望が高いです。防犯カメラにはどの程度予算が取られているのか教えてください。
- ・交通安全の横断歩道のカラー舗装に対する予算は十分なのでしょうか。
- ・啓発であるとよた安全安心フェスタの方が、交通安全対策より金額が多いことに違和感があります。より直接的な効果のある方へ使った方がよいのではないのでしょうか。市の考え方を教えてください。

○事務局

- ・河川監視カメラですが、県管理を含めた10か所に監視カメラを設置します。その設置と管理費用が計上されていて、河川管理者と調整しながら決定しています。
- ・防犯カメラの個別の金額はすぐにわかりませんが、調べておきます。
- ・横断歩道のカラー舗装は、小学校の通学路の中で、信号のない横断歩道を赤白のまだらに舗装する取組です。全学校区を対象に実施をします。

- ・豊田市は、防災フェスタのような啓発の取組が非常に多いです。費用対効果が出しにくいものですので、その点についてしっかり検討するよう所管には伝えていきます。今回は、特に交通安全・防災・防犯・消防と範囲を広げて、拡大してやっていくことになっていきます。

○委員

- ・防犯カメラの設置は主に自治区を通じて実施しており、費用の8割を補助してもらっていて、上限は80万円です。1台30万円くらいで交差点などに設置しています。
- ・フェスタについては、今まで防災の取組に参加していなかった団体に声をかけて、お互いに防災について確認しあうことができました。金額の是非はあるかと思いますが、こういう機会は必要であると感じています。

○委員

- ・資料の中で、「個人番号カード」「マイナンバーカード」と表現が混在しているのですが、どのような違いがありますか。

○事務局

- ・当初は「個人番号カード」という言い方で進めてまいりましたが、途中で国から「マイナンバーカード」という言い方の方がわかりやすいのではないかと、ということでこれから「マイナンバーカード」という言い方に統一することになりました。

○会長

- ・本日は、熱心にご審議いただきましてありがとうございました。